

2019. 10. 16

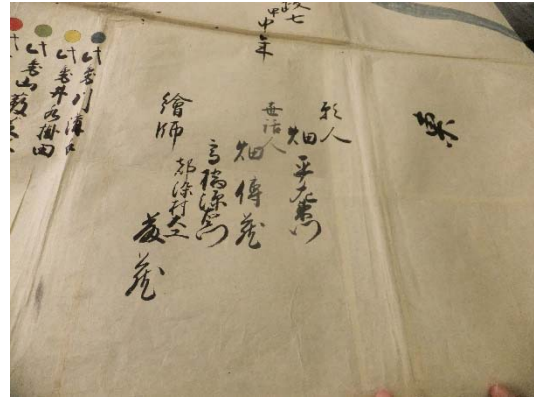
畑 啓之

加古川市北部を潤す亀之井用水の大絵図（文政7年、1824年、畑平左衛門）は壮観

加古川市に閲覧を申し込んでいた絵図をやっとのことで見る事ができた。まずは、その絵図が加古川市にあるかどうかの確認からのスタートであった。最初はその存在が否定された絵図であったが、人づてに聞いていき、確かに加古川市に保存されているとの情報を得た。そして、複数回にわたってその所在を探していただいた結果、やっとのことでこの（本物の）絵図にたどり着く事ができた。6月6日に探索を開始してから実に4カ月強で、それだけにうれしさもまたひとしおである。

さて、この絵図面はなにかというと、加古川市北部の国包地区・八幡地区の田に水を引く農業用水である。1814年に、北部の美嚢川（明石藩所領）から、当地区（姫路藩所領）に水を引くために、畑平左衛門應信を主願とし、畑源右衛門、畑伝右衛門國列、高橋伝右衛門、大工藤蔵が協力して、1816年にこの用水は完成したと、用水の完成を記念する亀之井堰碑にはその苦勞の過程と共に記されている。





畑平左衛門応親
 畑傳蔵（畑伝右衛門国列の長男）
 國列は 1839 年歿
 高橋源左衛門
 大工藤蔵

右上は、絵図に示されている名前である。畑平左衛門応親が畑傳蔵、高橋源右衛門、大工藤蔵の協力を得てこの絵図を作成している。石碑に示されている氏名と比べると、畑源右衛門の名がなく、畑伝右衛門国列はその子、傳蔵となっている。この図で注目すべきは、絵師が大工藤蔵となっていることである。用水のルート決定時に測量の責任者であった藤蔵は画書にも秀でていたことになる。

さて、絵図のおおよその説明であるが、写真左に上から下へと流れているのが加古川、上部に左横方向に流れる川が美囊川、その美囊川から用水を引き左下へと流している。この用水の本来の目的は、上半分の畑地を田に変え、安定した収穫を得ることであったが、当時加古川の河原となっていた絵図の下部部分に新田を拓くことにも成功している。

